

平成 29 年度 第 3 回学校協議会 記録

実施日 平成 30 年 2 月 24 日(土) 15 時～17 時

参加委員 山口 裕稔 委員（協議会会長、現 PTA 会長）
宮坂 政宏 委員（週刊教育 PRO）
山本 冬彦 委員（関西大学教授）
山口 善章 委員（高槻市立第一中学校校長）
竹下 健治（槻の木高等学校校長）
田中 徹（槻の木高等学校教頭）
河嶋 憲治（槻の木高等学校事務長）
田中 眞（槻の木高等学校首席）
山本 尚（槻の木高等学校首席）
藤田 稔（槻の木高等学校学年室長）

〈協議会会長あいさつ〉

山口 PTA 会長

お忙しい中、お集まりくださり、ありがとうございます。

29 年度最後の協議会となりました。今年度のまとめと来年度に向けた活発なご議論をどうぞ
よろしく願いいたします。

〈学校長あいさつ〉

竹下校長

本日は、皆様、お忙しい中、ありがとうございます。

槻の木高校では、3 年生は国公立の試験が明日に控えており、1・2 年生は期末考査期間中
です。さらには、3 月 3 日には卒業式もございます。

本日も本校に向けたご提言、どうぞよろしくお願いいたします。

〈報告 1. 平成 30 年度学校経営計画〉

竹下校長

今年度との変更点を主に報告させていただきます。

まず、新学習指導改訂に関して、本校のカリキュラム改編をめざします。英語学力考査に
ついては『GTEC』をすでに 3 年度より導入する運びになっております。また、従来の
『規範意識の醸成』を『高い志の育成と人権尊重の醸成』に変更いたしました。

より組織的で効率的な協働体制の構築のところでは、運営委員会中心の学校運営を推進と
いう形にいたしましたが、これはすでに今年度の秋よりその方向で動いております。

若手教員の育成では、本校が初任の先生が増えてきております。そこで、若手教員の企画
運営による研修形態に移行しようかと考えております。

<報告2. 平成29年度学校教育自己診断の結果>

山本首席

まず、生徒と保護者の結果についてご報告いたします。

おもに、昨年度と企画して±5pの差がある項目についてご報告いたします。(資料参照)が、特に大きな変化はありませんでした。概ね、これまで同様の結果が出ております。

生徒の結果で、5p超える減があった項目は、まず、『夏期講習』に関わる内容です。これは、生徒が講習に対する要望が、自分に合った内容にと、少し厳しくなってきたかなあという実感です。いいことですが。つまり、講習内容や難易度の要望レベルが上がっているのでは、ということが一つの要因でないかと思われます。

『自宅での学習習慣』に関する数字も少しポイントを下げました。これは、自宅で、という言葉でポイントを下げたのでは、というように思います。学校外、自宅外で学習している生徒が増えているのだと考えます。

『生活指導』に関するところでは、逆に数字が上がっている項目があります。『先生の指導は納得できる』です。

『体育大会』と『文化祭』については、質問の内容を変えたところ大きくその数字を伸ばしました。生徒の実感に近づいた数字だと思います。

『学校説明会は高校選択の参考になった』も数字を伸ばしております。

竹下校長

教職員に関しては、その数字を落としております。

業務上でのことでの問題をうまく処理できなかったことがいくつかあり、そこから象徴的に校長のリーダーシップの数字を下げておるのでは、と思います。本校でも、15年目を向かえ、今までやってきたことがうまく伝えられていないことが重なって、揺れた空気が存在しているかと思います。現在、先ほども報告しましたが、運営委員会主体の学校運営にし、活発な議論が出てまいりましたので、あわてずじっくり対処していきたいと考えています。

<報告3. 頭髪指導に係る校則等の見直しについて>

田中首席

生徒手帳に掲載している校則で見直しが必要な内容はありませんでした。特に頭髪指導に関しては、現在もその内容で指導を行っていますが、手を入れず自然な状態にすること、をあげており、頭髪の変化についてはチェックしていますが、小さい頃、中学校の頃の写真をもってチェックする状況にはなっておりません。

<協議 学校経営計画等について>

宮坂委員

開校よりの『槻の木メソッド』は内容と実績が評価されていたが、運営委員会中心の学校運営になって、この部分について変化があるといけないと思います。もちろん、大丈夫だと思いますが、その点いかがかでしょう。

山口委員（PTA 会長）

子どもを槻の木に入れたいと思ったのは、先生方が一生懸命であるから。この一点です。いろいろな学校を見てきて、槻の木の魅力はそこにあると思います。その点が変わらない変化と改革をぜひお願いしたいと思います。

竹下校長

槻の木アイデンティティーをどう担保するのか。生徒に寄り添い、面倒をみるという点の堅持は槻の木の生命線であると考えていますし、先生方の教育や生徒と向き合う姿勢は全くご心配には及ばないのでは考えております。

ただ、教職員一人一人の当事者意識を醸成し、よりよい形態を追及したいと考えております。

宮坂委員

当事者意識というワードは、企業においても重要ワードです。また、槻の木アイデンティティーは大切であるが、同時にブラッシュアップする必要も大切であることは、様々な企業が成功体験に捉われて凋落した状況を見ても、思います。（形式ではなく）この改革がどういう意味があるのかを伝えることが重要ではないでしょうか。

山本委員（関西大学）

前任の学校のギャップの経験は、いろんな体験を積み上げていくというという意味で、教員のキャリアアップに関して大切だと思います。大学の教育でも私の関西大学の講義で学生に自治体ごとにゴミ回収仕方に大きな差があるということについての話し合いをいさせ、自分が当たり前だと思っていることでも、違うやり方がることを考えさせたことがあります。そのギャップを体現させる教育は必要ですね。

宮坂委員

新学習指導要領に関しては、学校としていかなる対応を考えておられますか。

竹下校長

本校は単位制ですので、毎年カリキュラムを検証し、細かい小さな改編しております。このような毎年の通常の業務で対応できる部分がほとんどだと思います。

山口委員（高槻第一中学校校長）

学校長という立場で、指導要領の改編に伴う学校の対応であるとか、今の槻の木に求められる学校運営に係る変化に関するご苦労はよく分かるところです。本日は、中学生が持つ槻の木高校の印象について少し調べてまいりましたのでご報告します。

槻の木高校は特に高槻一中において、最も身近な学校として行きたい学校、行かせたい学校として強く認識しています。それは普段の槻の木高校の生徒の様子を見ているからです。槻の木に対する憧れを持っている生徒や特に保護者は大変多く、「厳しい」とか「朝が早い」という声を上回っております。これからも、槻の木高校が成長していく姿を見せたいと思っております。できましたら、クラブ単位の交流ではなく、槻の木高校と第一中学校と学校交流を追及できないでしょうか。

宮坂委員

運営委員会での意見の吸い上げは、そのテーマやポイントを絞られるとよいと思われま

す。学校教育自己診断についてですが、槻の木高校はこれまでも、今回も、高く

てよい結果が出ていることは承知しております。『授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある』という項目は学力が高い学校の特徴でもあります

が、これに加え、自ら探求する学習についても盛り込んではいかがと思います。

山本首席

現状として、本校は授業日数や授業時間をできる限り確保しておりますが、それでも例えば難関といわれる大学の入試に対応することを考えますと、特に高校2年生の教科書内容や単元が多すぎて、ゆったりとした授業計画ができない状況が一般的にあります。この項目に当てはまる授業は私たちからは、1年生にチャンスがあると思っており、そのため2年、3年の数字が下がっているのではと考えます。

山本委員

自宅で学習する時間の減少について、もう少し詳しく教えてほしいのですが。

山本首席

進路課からの報告や生徒たちの情報では、中学受験で世話になった塾の教室を借りて、自習活動をしている本校生徒が増えているという実態があるようです。1・2年生の通塾率が少し上がっているのですが、それは自習活動として、大学受験の予備校ではなく高校受験対応の塾に行っている選択肢が今の生徒にはあるということが分かってきました。

山本委員

すごく面白い実態だなと思いますね。学習活動のコミュニティーが変化しているということなんでしょうか。さらに質問ですが、上級生の夏期講習の減少は先ほどの二ーズのピンポイント化で分かるのですが、1年生の夏期講習の数字がさがっているのはどういう理由からだと思われま

山本首席

すか。今年の入試結果から推測すると、おそらく、教科を一つに限定したとき、学力差がやや大きいことが、満足できる講習になりにくい要因になっているのではないかとことです。ただ、もちろんですが、我々の講習に対する内容の吟味を丁寧にする必要があると思

山口委員（高槻第一中学校校長）

います。中学校サイドの印象では、部活動の数字と部活動と学習の両立の数字がこんなに高いのかという驚きが少しあります。いい数字を頂戴しました。先入観で、槻の木高校はクラブをやる余裕がないと思っている中学生がいますので。

河嶋事務長

施設設備に関する数字もありますので、私のほうからも情報提供いたしますと、今年度生徒、保護者、事務3者が一堂に会しまして、『トイレを考えるミーティング』を開催し、様々な意見を頂戴しました。このたび、体育館のトイレ改修ができるようになったのも、このような取り組みの成果だと考えております。

宮坂委員

今回のいわゆる頭髪指導に関しては、マスコミの取材や報道に大きな問題があったのではないかと思います。ただ、今回の報道に直接係っていない周辺の現場では、チェックをするよい機会であるかもしれませんね。

竹下校長

宮坂委員のいわれるように、よい機会と考えました。時代にそぐわない校則の有無のみをチェックしましたが、ありませんでしたね。

山口委員（高槻第一中学校校長）

私たちの中学校でも、校則に関して、大きな問題はありませんでした。むしろ、小学校で頭髪に関して心配している場合もあって、小学校6年生の中学校体験の取り組みを重要に感じております。

山本委員

学校運営協議会の件ですが、人事のことや承認件の問題は重要で、この方が協議会の影響力はもちろん大きくなるのですが、これはむしろ学校サイドの問題だけではなく、協議会の当事者意識の問題になるのです。それと、コミュニティースクールに対する形がいろいろありまして、市民参加型や応援型などからどのような形を選択すればいいのか難しいのです。現在の課題は、人選の問題が一番大きいということと、地域差が大きい側面があるのでなかなか府全体で統一した形の追及は難しいということもあろうかと思います。

<提言>

宮坂委員

新学習指導要領に関してですが、単に教科時間数や組合せの問題にするのではいけないと思います。カリキュラムマネジメントの実施が求められます。このプロセスで様々な学校課題を考えるきっかけにするといいと思います。

山口委員（高槻第一中学校校長）

いつも、槻の木高校の取り組みを聞かせていただくと大変勉強になります。教育の方法だけでなく、槻の木高校の正しい情報をしっかりと中学生、中学校に返していきたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。

山本委員

大変参考になりました。
学校だけでは、教育が完結しない時代。その前提で、どんな学校にしていくのか、どんな

学校になってほしいのか、という考え方が大変多様な時代です。槻の木高校の取り組みがその一つの考え方を示そうといただいているのは間違いないところです。本日は、ありがとうございました。

山口委員（PTA 会長）

高槻を代表する一つの高校として、更なる成長を期待し、応援していきたいと思えます。

竹下校長

皆様の貴重なご意見は、励ましの言葉として、力強く響きました。本当に本日はありがとうございました。来年度は、学校運営協議会としてよろしく願いいたします。